

現場風景・あかり光景 125

ホテル、屋内運動場、クラブハウスなどが続々!!
熊谷市に建設中のラグビータウンの目玉施設たち

公園内の宿泊棟は夏に披露目が予定されているラグビータウン熊谷の新名所

2019年に開催されたラグビー・ワールドカップの余韻は今も醒めやらない。2019年の興奮をそのまま2020年に持ち越すことは、残念ながら新型コロナウイルスの影響もあり、できなかった。そういう意味ではせっかくのブームがトーンダウンしたという言い方もできるだろう。

しかし、表面的なブームというのは、新型コロナウイルスの騒動があってもなくても、いつかは消え去る運命にある。

その点、2019年ラグビー・ワールドカップが掴んだのは、単なるブームではなく、もっとコアな部分でラグビーの魅力に目覚めた多くのファンだった。

日本のラグビー界を牽引するトップリーグには、新型コロナウイルス禍に見舞われた後も、続々と各国代表選手たちが移籍している。いずれの選手たちも、その理由の一つに、ワールドカップでの日本人サポーターたちの熱い声援ともてなしの精神に魅せられたことを、異口同音に挙げている。何よりも長年の課題だった子ども

たちや女性たちの競技人口が増えつつある。

ラグビーは今や「むくつけき大男たちだけのスポーツ」ではなく、老若男女がそれぞれの体力に合わせて楽しめる、規律あるスポーツとしての魅力を、黙っていても発信できる存在になりつつあるのだ。今週の写真は、その「証」の一つといえるかもしれない。

ワールドカップの会場都市となった埼玉県熊谷市にて建設中の、ラグビータウンの目玉の一つである宿泊棟（ホテル）なのだ。

ワールドカップの会場に使われた熊谷ラグビー場が立地する熊谷スポーツ文化公園内に建設中のこの宿泊棟は、ラグビー選手や関係者だけでなく、試合観戦に訪れたファンも利用できる。

併せてクラブハウス、屋内運動場、カフェなども建設される予定で、今年8月に熊谷市に拠点を移すトップリーグの強豪「パナソニック・ワイルドナイツ」の本拠地ともなる。今秋以降のシーズンにはさぞかし話題を呼んでいることだろう。（砂耳）